１学期終業式　式辞

おはようございます。今日は吉田兼好の随筆『徒然草』から題材を取ってお話をします。「友とするに悪(わろ)きもの」＝こんな人と友達になりたくない、という段があるのですが、その最後に、「よき友三つあり」と、逆に友達にするならこんな人という例が３つ挙げられています。いきなりですが、皆さんにも考えてもらいましょう。自分ならどんな友達がいてほしいですか。

面白い人とか、悩みを聞いてくれる相談に乗ってくれる人とか。では、物をくれる人・お金持ちと答えた人はいますか。あなたは吉田兼好と同じ考えです。兼好は第一に「物くるる友」を挙げています。ずいぶん打算的ですが、兼好の境遇、鎌倉時代末期、出家遁世(とんせい)して自分では金儲けの手段を持たない困窮した境遇を考えれば、そうかもねと思えます。兼好はある時、同じ出家仲間の頓阿(とんな)に「コメをくれ、カネも欲しい」と要求する和歌を送っています。困窮の度合いがうかがえます。しかし、令和の現代に、お金持ちと友達になりたいと本気で考えている人がいるとしたら、考えを改めたほうがいいでしょう。いくら友達が「いいよ、あげるよ」と言っても、金品をもらうということは友達から財を奪うことです。そう考えると、おごりとかカネの貸し借りとかは交友関係においては慎んだほうがよいでしょう。

それでは、何かを与えもらう＝授受の際に、一方的に与える者が奪われ貧しくなり、もらう者が富み栄える以外の授受の関係が、人間社会ではありえないでしょうか。何かを与える側も、もらう側も共に豊かで幸せになれるやりもら

い＝授受の関係は存在すると思いますか。どんなことが考えられるでしょうか。

最初の『徒然草』に戻ると、「よき友三つあり」の最後に、兼好は「知恵ある友」と言っています。困っているときに、こうするといいよ、と知恵を授けてくれる。勉強でわからないところがあると、わかりやすく解き方を教えてくれる。部活動でボールや道具を扱う技術やうまい身のこなしを教えてくれる。こういう友達がいると本当に助かる、兼好の言いたいことを令和の高校生風にするとこういうことでしょう。ところで、その教えてくれる友達は知識や技術を教え与えたことによって、損をしているでしょうか。友達に何かを教えた経験がある人は実感があるでしょう。過去には自分も解けなかった、できなかったことなので、この辺でつまずくかなと想像がつく。そこをわかりやすく教えてあげたとか、説明をするうちに自分でもよくわかるようになって教えることが返って自分のためにもなったとか、友達からお礼を言われて自信になったとか。

校長の私が思う、こういう友達がいるといいとお勧めしたい関係は、まさにこういう友達関係です。金品とは違って、自分の知っている知識や自分にできるスキルは、友達に分け与えても減るものではありません。むしろ与えることで感謝され、関係が深まり、時に互いに切磋琢磨して刺激を与え合い一緒になって力を伸ばしていくことだってあります。少し話題が飛びますが、パリ・オリンピックが近づき、予選や強化試合がテレビで中継されています。その会場

で種目を異にする代表選手たちが観戦・応援している光景がたびたび見られました。とてもいい光景ですね。彼ら彼女らは応援しながら、自分たちも頑張ろうと刺激を受けているに違いありません。パリでの活躍が期待されます。

教え合う関係に話を戻すと、校内にとどまらず、地域社会・ご近所さん同士でも、生徒の皆さんひとりひとりが自分の持つ力を、社会のためにちょっと提供するのはどうでしょう。近所の小学生に勉強を教えるでも、一緒にスポーツをしてあげるでも、家の前の側溝の掃除に協力するでも、何でもいい。そういう心がけをお互いに持てる社会は、きっと自分にとっても住みやすい社会になっていくはずです。

最後に、これから夏休みそしてその後の２学期にやってくる学校祭に向けて、よいパフォーマンスができるよう、今日の話を頭の片隅に置いて、それぞれの場面で、みんなのために自分ができることを提供しあってしっかり準備をしましょう。８月５日、６日の中学生の学校見学会には、中学生の保護者もあわせて８00 人を超える人が参加予定です。文化祭３日目、9 月７日の土曜日にも、本校に関心を寄せる中学生が体験・見学に本校を訪れます。ぜひ、後輩となる中学生に丁寧に接し、本校の魅力を説明してあげてください。また学校祭では、昨年度も生徒主体で各種のイベント、パフォーマンスを盛り上げることができました。今年も「さすが高校生。牧南祭はすごいな」と中学生をうならせることができるように、準備から当日の発表まで、牧南生の底力を発揮してくれることを期待して、一学期終業式の式辞を終わります。